

# 大学評価指標の可視化と エンロールメント管理

2010年 10月18 日

情報メディア教育研究センター 常盤 祐司 yuji.tokiwa.dc@hosei.ac.jp

© Copyright Hosei University

## **H**OSEI

#### **Contents**

- ■主要ICTシステム
- ■大学評価指標の可視化
  - モチベーション
  - システム概要
  - 事例
- ■エンロールメント管理
  - モチベーション
  - システム概要
  - 事例

## 法政大学における主要ICTシステム

ユーザー サービス	学生	教員	学務系職員	法人系職員
教育サービス	授業支援システム 図書館システム	4		
学務系事務サービス	情報システム <sup>お知らせ/Web履修/We</sup>			
法人系事務サービス			財務システム	人事・給与システム
情報サービス				
пати и		エンロールメン 退学予知システム	ト管理システム	

© Copyright Hosei University

**H**OSEI

## 大学評価指標の可視化



## 過去,大学には 「運営」があっても「経営」はない という指摘がなされてきた.

出典: 福井 有 (大手前大学) 編著,

「大学とガバナビリティー -評価に堪えうる大学づくり-」, 学法新書, 2006

© Copyright Hosei University

4

## **H**OSEI

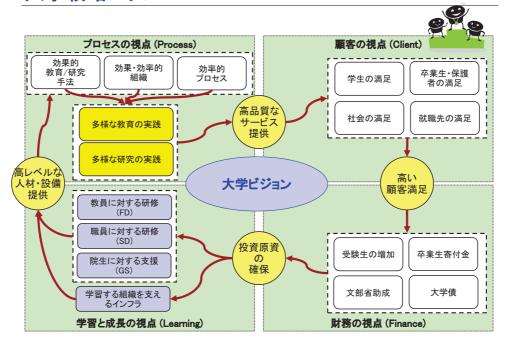
## Management Cockpit

#### 注目するKPIの状況が一覧できるコックピット





## 大学戦略マップ



© Copyright Hosei University

## **H**OSEI

## BIシステム

最も簡便で身の回りにあるシステムを選択した





2007年度検討



2008年度検討



## 実施体制およびマイルストーン

法政大学<br/>情報メディア<br/>大学評価室スイクロ<br/>情報メディア<br/>教育研究<br/>センター又フト<br/>XCAT

- ・データ・情報提供 ・学内展開
- ・システム構想
- ・システム評価
- •要求仕様作成
- •運用•管理
- •BI情報提供
- ・システム開発
- •データ入力

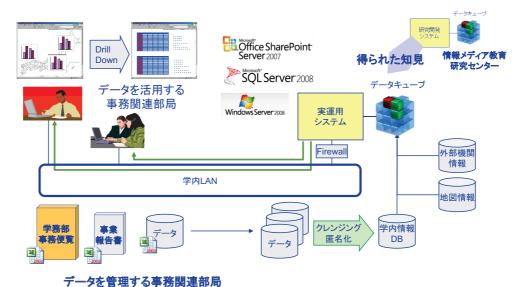
## HØSEI

#### Microsoft Case Studies



## システム概要および利用イメージ

#### 学部門で管理していたデータを集約し可視化する



/ アで自在する予切例注印/

© Copyright Hosei University

IU

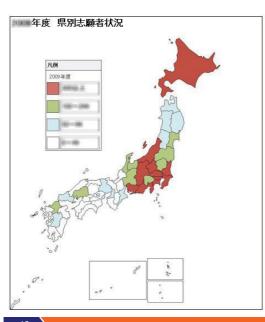
### **H**OSEI

## 可視化項目一覧

- 01 法政大学社会的評価
- 02 授業回数及び専任率表
- 03 教員一人あたりの学生数
- 04 教員集計表
- 05 専任教員平均授業回数表
- 06 年齢構成一覧
- 07 専任教員数および外国人教員比率
- 08 専任教員数および女性教員比率
- 09 専任教員数および博士号取得教員比率
- 10 科目等履修生
- 11 外国人留学生数
- 12 留学者数
- 13 卒業判定
- 14 標準修業年限卒業率
- 16 卒業生アンケート(大学・卒業学部)
- 17 卒業生アンケート(教育内容)
- 18 保護者アンケート
- 19 大学院における学位授与状況
- 20 大学院専任教員一人あたりの学位授与率
- 21 就職・大学院進学状況
- 23 旧司法試験二次試験 新司法試験合格者推移
- 24 学部·研究科別公認会計士試験合格者数
- 25 志願者数推移

- 26 一般入試都道府県別志願者・合格者数
- 27 一般入試結果
- 28 入学定員超過率
- 29 収容定員超過率
- 30 入試状況
- 31 大学院入学者の構成
- 32 学部別入試偏差値一覧
- 33 新入生アンケート
- 34 留級者数一覧
- 35 退学・除籍者数一覧
- 36 退学•除籍率
- 37 サービスに関する満足度
- 38 卒業生アンケート
- 39 科研費採択状況
- 40 科研費交付決定者
- 41 科研費インセンティブ経費配分対象者一覧
- 42 就職・大学院進学状況

#### さらに新たな気づきが生まれる





© Copyright Hosei University

**H**OSEI

\_\_\_

#### **CSF**

#### CSF

- 1. 発案およびプロジェクト実施を担う教員がいた.
- 2. 事務組織で予算が確保されていた.
- 3. 既存システムを有効活用できた.
- 4. MSからの適切な情報提供があった.

#### ■もしCSFがなかったら

- •基礎データを集めることができなかった. (1)
- ・外部委託による開発ができなかった. (2)
- •全学的な展開ができなかった. (3)
- •コストが予算に収まらなかった. (4)

- ■本格的なBIシステムでなくても可視化はできた.
- ■データ収集が困難であった.
- ■教職員に各種データを公開できた.

全教職員参加による「経営」への第一歩が踏み出された.



© Copyright Hosei University

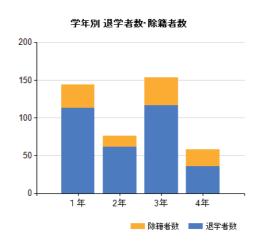
**H**OSEI

## エンロールメント管理



## 退学および除籍

少なからずの退学あるいは除籍者が存在している.



431名の退学・除籍 II 8.4億円機会損出 II 24,000人受験料





学生からは何の相談もなく, 突然退学届を出されることが多い.



© Copyright Hosei University

**H**OSEI

## 退学に至る状況と対策

必修科目を欠席する.



出席管理システム ログから検知

必修科目の単位を取得できない.



留年



退学

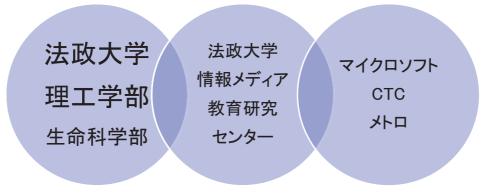
## ある科目での出欠状況



20 © Copyright Hosei University

## 実施体制およびマイルストーン

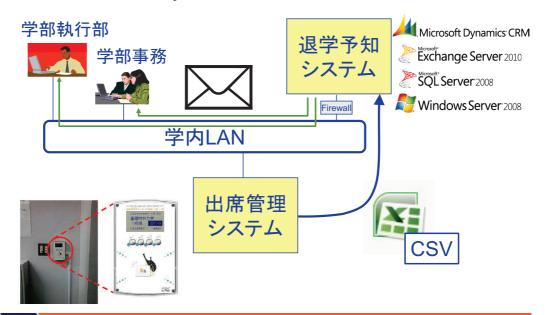




- •必修科目情報提供
- ・出欠データ提供
- •フォローアップ活動
- ・システム構想
- •評価基準立案
- ・データ入力・分析
- •CRM情報提供
- ・システム開発

## システム概要および利用イメージ

## Microsoft Dynamics CRMを活用して構築した



© Copyright Hosei University

22

## HØSEI

## データ収集対象科目

## 理工学部および生命科学部の すべての必修科目を対象とした.

カテゴリ	科目数		
語学	89		
ICT	11		
専門	49		
総計	149		

## 担当者への通知メール

## Microsoft Dynamics CRMに準備された メール本文が条件に応じて送付される.



4 Copyright Hosei University

## **H**OSEI

## 必修科目連続欠席者リスト



## 結果

2065人中171人(8.3%)が必修科目にて連続欠席している.

連続欠席	学年				総計
科目数	1	2	3	4	(人)
1	41	52	31		124
2	6	13	4	1	24
3	4	8	8		20
4		1			1
6		1	Z	0	1
8		1			1
総計(人)	51	76	43	1	171

26

© Copyright Hosei University

## 結果

**H**OSEI

専門科目における連続欠席が最も多い.

連続欠席	学年				総計
科目カテゴリ	1	2	3	4	(延べ人数)
語学	18	42	7		67
ICT	17	7			24
専門	30	71	56	2	159
総計	65	120	63	2	250

#### まとめ

- ■日々生成される出席データを逐次処理することによって、欠席が目立つ学生を見出すことができた.
- ■エンロールメント管理にCRMシステムを活用することができることを確認した.

データ指向エンロールメント管理への 第一歩が踏み出された.



© Copyright Hosei University

HØSEI



fostering individuals
who can powerfully act with individually independent characters,
and thus make great contributions to society